

石見銀山テーマパーク化計画

多久和 豊

1. はじめに

世界遺産に登録をされようとしている石見銀山遺跡へ、一人でも多くの人に訪れてもらいたい。そんな思いから石見銀山テーマパーク化計画を立案する。

世界遺産登録の目的は、将来に向けての遺産の保護推進と、日本固有の文化及び文化遺産価値の世界への発信である。現在、登録に向けてさまざまな取り組みが進められているが、開発行為の制限等により観光地としての整備が妨げられ、今のままでは観光客に満足してもらえないのではないかと懸念する声がある。実際に銀山を訪れた私たち第1・第5分科会メンバーの一致した感想としては、「この感動を多くの人に体感してもらいたい」と思う一方、「もう一度訪れてみたいけど、あの厳しい道のりを考えるとちょっと・・・」というものであった。

保護と開発のギャップは切り離せない難問である。ここではあえて集客のみに着目し、石見銀山をテーマパークとして捉えてみる。夢とロマンあふれる観光地としての石見銀山遺跡を創造（空想？）することにより、今後の観光地としての石見銀山発展のヒントとなれば幸いである。

2. 石見銀山テーマパーク化の目的

- (1) お年寄りから子供までが銀山の魅力に触れることのできる環境整備
- (2) マイカー以外により一泊二日の予定で訪れる観光客への配慮

3. 石見銀山の魅力紹介（銀山^{さくのうち}柵内）

大森代官所跡（銀山資料館）

1815年に建てられた代官所の跡地が銀山資料館として利用されている。銀山に関する資料が展示され、観光前に見学すれば銀山を数倍楽しむことができる。

清水谷精錬所跡

明治時代に操業されていた銀精錬所跡地。目前にそびえる多段の石積みが当時を忍ばせる。本谷側から通じる坑道（蔵之丞～金生坑）を利用したトロッコによる当時の鉱石運搬を創造すると胸高鳴るものがある。

釜屋間歩付近岩盤加工遺跡

岩盤を利用した階段や風呂跡などから当時の生活を思い描くことができる。

遺跡の中では必見中の必見！

仙ノ山山頂^{いしがね}石銀遺跡

銀山開発当初に行われていた露頭掘り遺跡群。標高470mの高地に開けた平地から、江戸時代初期に賑わった町を想像できる。

要害山山頂（山吹城跡）

戦国時代における銀山争奪戦の要塞として



必見！釜屋間歩遺跡

利用された城跡。三瓶山から日本海まで一望できる景観は絶景。

龍源寺間歩

現在石見銀山の間歩の中で唯一観光用に公開されている間歩。当時の職人の苦労が実感できるスポット。



オシャレな大森の町並み

龍源寺間歩出口の土産物屋

気さくな主人の流暢な勧誘で、ついつい土産を買ってしまう。

大森の町並み

江戸時代、石見銀山とともに幕府直轄地となった大森の町には今も江戸時代の建物が多く残り、近年古い建物を利用したオシャレで魅力的な店が建ち並ぶ。

4．観光地としての石見銀山の課題

- (1) 石見銀山遺跡は、銀鉱山跡、周囲の銀山に関連する山城跡・港湾跡・古道跡や歴史的集落、それを取り巻く豊かな自然環境をセットとした文化遺産であるため、観光スポットが広い範囲に点在する。
- (2) 目的地までの急峻な地形が行く手を阻む。特に銀山柵内にある釜屋間歩、仙ノ山山頂、山吹城跡へ行くためには、かなりの健脚でも音をあげてしまう標高差 300m 程度の整備されていない急峻な山道を制覇しなければならない。

5．石見銀山テーマパーク化計画（次頁図参照）

A 案. 銀山資料館の観光拠点化

観光拠点としての観光案内所や休憩施設の充実。バーチャルリアリティを活用した音と映像等で、銀山の魅力をわかりやすく伝える工夫があればベスト。

B 案. 銀山資料館～龍源寺間歩間の定期観光レトロバスの運行

市道銀山線を行き来する名物観光ガイド付きバスで観光気分を盛り上げる。

C 案. 銀山柵内を囲む柵の復元と柵内入場のパスポートによる規制

江戸時代初期に銀持ち出しを規制するため建てられていた柵を復元し、テーマパーク内への入場を印象づける。

D 案. 清水谷入口～金生坑間のトロッコ列車計画

既存の坑道をトロッコ列車に乗り、遊園地の冒険感覚で楽しむ 10 分間。

E 案. 金生坑～仙ノ山山頂間のケーブルカー計画

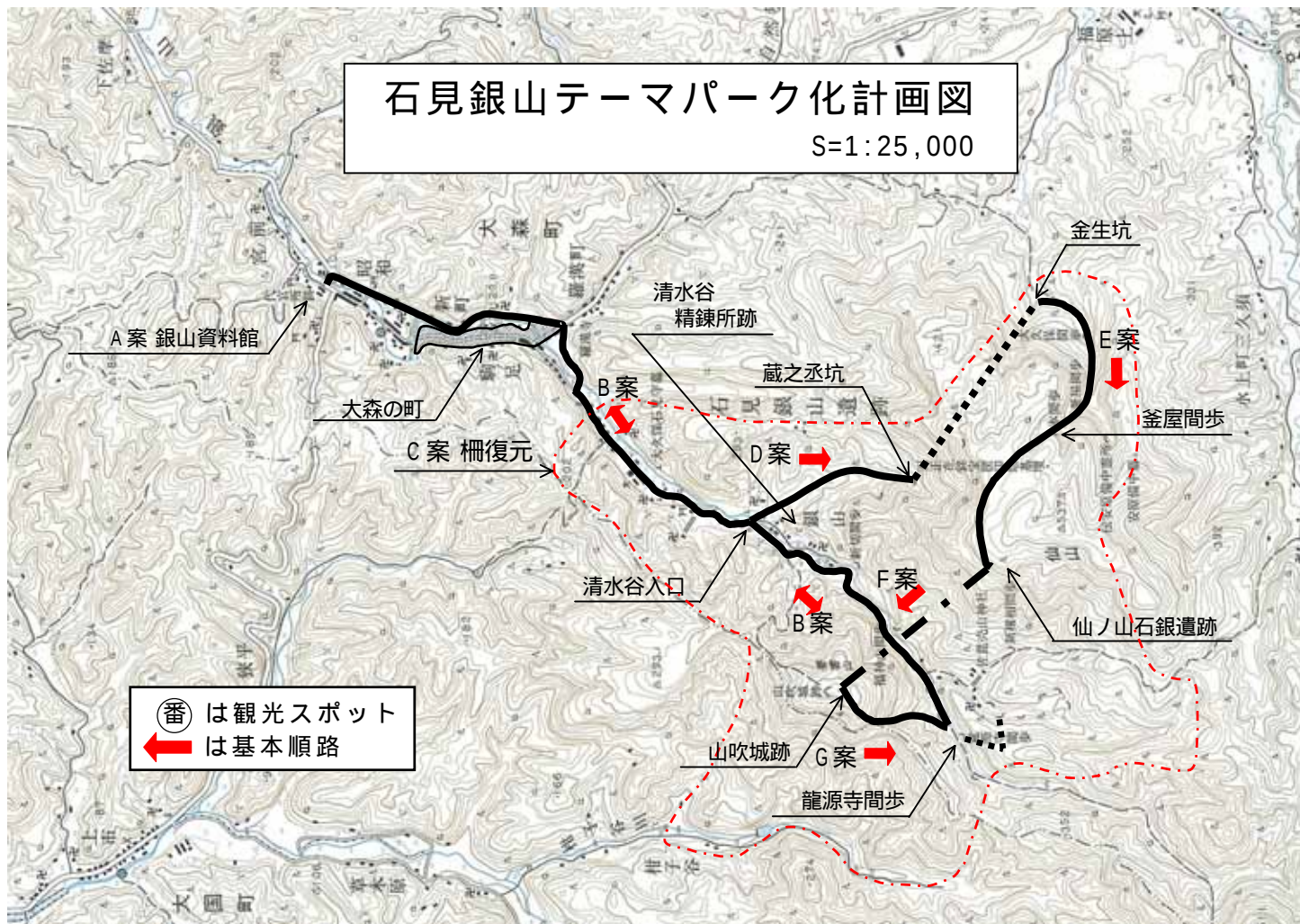
急峻な遊歩道を歩くハイカーを横目に見ながら、ケーブルカーで大久保間歩や釜屋間歩等を見学できる。

F 案. 仙ノ山山頂～山吹城跡間ロープウェイ計画

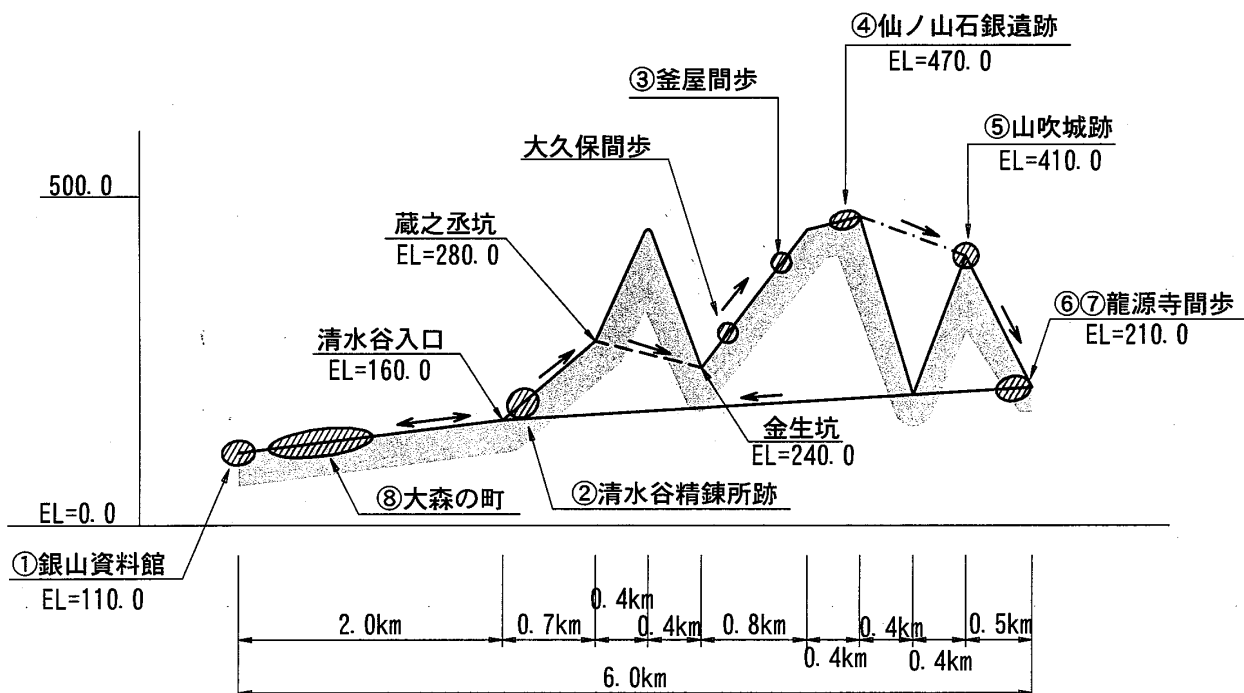
大森の町を眼下に日本海から三瓶山の絶景を眺めながらのロープウェイの旅。

G 案. 山吹城跡～龍源寺間歩間モノレール計画

広葉樹林の木立を縫って走るモノレールで森林浴を楽しみながら下山する。



往 路 L=6km	B 案 レトロバス	D 案 トロッコ列車	E 案 ケーブルカー	F 案 ロープウェイ	G 案 モノレール
復 路 L=3km	B 案 レトロバス				
	徒歩				





C 案 柵復元イメージ図



F 案 ロープウェイイメージ図



D 案 清水谷精錬所跡を走るトロッコ列車イメージ図

6 . テーマパーク化計画に対する考察

石見銀山は、昭和 17 年の水害を契機として完全に閉鎖され、それ以降人の手が加えられない状態で残存したため、文化的価値の高い遺産が創造されたとされている。現在、世界遺産登録に向けて保存管理計画が策定中であり、開発行為は規制されることになる。今回提案した石見銀山テーマパーク化計画は、開発規制さらには財政面を考えた場合、夢の又夢であり、また少々行き過ぎた観光開発と考えられる。しかし、観光客の増加による町の活性化は世界遺産登録のもう一つの目的である。本計画における B 案・C 案は、現道幅 $W=3.0\text{m}$ の市道銀山線を拡幅することなく利用でき、さらに入場料による収益を得ることができると考えられる。

7 . おわりに

石見銀山には江戸時代の初め 20 万人の人が住んでおり、当時堺（大阪）に次いで全国第 2 位の大都市であった。「夢とロマンあふれる銀山の歴史と遺跡をもっともっと多くの人に知ってもらいたい」という私の思いは、本提案を行うことにより一層強くなった。今後は研究部会メンバーで協力しあい、世界遺産登録に向けての動きに注目しつつ、土木技術者として、また島根県人として銀山の魅力をより多くの人に伝えるメッセンジャーになればと考えている。

以 上